

きゅうしゅう

NO.59



写真：由布岳（提供：陸上自衛隊湯布院駐屯地広報室）

目次 CONTENTS

- 1. 部隊紹介：陸上自衛隊 湯布院駐屯地
- 2. 自治体紹介：大分県 由布市
- 3. 業務紹介：管理部 施設管理課
- 4. インフォメーション：護衛艦命名・進水式ほか



写真：多連装ロケットシステム「MLRS」
（提供：陸上自衛隊湯布院駐屯地広報室）



防衛省と地域社会との協力を象徴するエンブレム



1. 部隊紹介



陸上自衛隊湯布院駐屯地



西部方面特科隊長
兼ねて湯布院駐屯地司令
1等陸佐 前田 尚男

九州防衛局広報誌「きゅうしゅう」をご覧の皆様、西部方面特科隊長兼ねて湯布院駐屯地司令の前田1佐です。湯布院駐屯地は、湯布院盆地ダム化計画議論の最中、旧湯布院町の熱烈な誘致活動により昭和31年に秀峰豊後富士（由布岳）を仰ぎ見る風光明媚な良地に開設されました。また、近傍には西日本最大の演習場である日出生台演習場が所在（管理業務を担当）し、駐屯地内に2つの源泉を有するなど、様々な特性を持った駐屯地です。現在は、西部方面特科隊を中核として、水陸機動団特科大隊、第368施設中隊、駐屯地業務隊などが所在し、常に即応態勢を保持しつつ、日夜訓練等に励んでおります。今年で創立66周年を迎える湯布院駐屯地は、これからも「地域との共生」をモットーに、皆様と共に歩み絆を深め、信頼とご期待に応えられるよう努めてまいりますので、変わらぬご理解・ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



駐屯地の沿革

駐屯地開設
(戦車部隊基幹)



S 31. 1

第111特科大隊
別府駐屯地から移駐



S 41. 3

第3特科群主力
別府駐屯地から移駐



S 52. 4

第3特科群廃止
西部方面特科隊新編



H 15. 3

第112大隊廃止
水機団特科大隊新編



H 30. 3

駐屯地所在部隊

湯布院駐屯地司令



部隊活動



対空戦闘を行う隊員

本部中隊



標定中の対砲レーダ

第302観測中隊



MLRSの射撃訓練

第132特科大隊



洋上において訓練する隊員

水陸機動団特科大隊



車両の回収作業

第101特科直接支援隊



新設拡充工事

第368施設中隊



大型車両の回収

水機団後方支援大隊
特科直接支援小隊



施設器材を整備する隊員

第103施設直接支援大隊
湯布院派遣隊



現金を受領する隊員

第404会計隊湯布院派遣隊



交換業務を行う隊員

基地通信中隊湯布院派遣隊



警護業務を行う隊員

第134地区警務隊湯布院連絡班



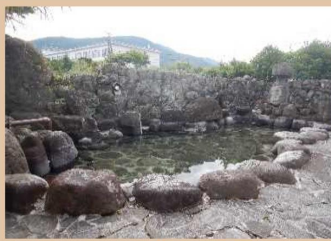
決意を新たにする候補生

自衛官候補生教育

隊員の生活基盤の向上



地域企業と連携した
本格フレンチの提供



源泉かけ流し露天風呂
(2カ所の源泉を保有)

日出生台演習場の管理



地域と協同で行う野焼き

湯布院駐屯地業務隊は、西日本最大の演習場である日出生台演習場を管理しています。地域との共存共栄を柱に、九州防衛局・西部方面総監部と連携し、演習場の長期安定使用に努めています。

地域との連携



ゆふいん温泉まつり



春風コンサート



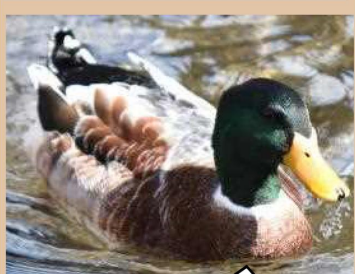
職場体験学習



ゆふいん盆地まつり

由布市湯布院町を主体として、隊区の市町村を中心に自治体主催のイベントへの参加（音楽演奏・装備品展示等）、学校からの依頼による職場体験学習や防災教育を行う他、地元高校・中学校吹奏楽部との合同演奏会（春風コンサート）を行うなど、由布市民の一員として、地域に根差した活動を行っています。

SNSによる情報発信



みんなの活動状況を僕目線でお伝えするグワ！



Twitter Instagram Facebook

2. 自治体紹介 (大分県由布市)



由布市長

相馬 尊重

市長あいさつ

由布市は、大分県のほぼ中央に位置し、北部から南西部にかけて、由布岳や黒岳など1,000メートル級の山々が連なっており、挾間・庄内・湯布院の3つの特色あるエリアで構成されています。

市全域が「国民保養温泉地」に認定されており、標高450mの由布院盆地内には、全国屈指の湧出量を誇る「由布院温泉」があります。

また、800年の歴史を持つ湯治場である「湯平温泉」、薬湯で有名な「塚原温泉」、山間に美人湯が点在する「はさま温泉」といった、さまざまな泉質の温泉を堪能することができます。

さらには、原生林や湧水を育む「黒岳・男池」、古(いにしえ)から舞い継がれてきた「庄内神楽」、国内有数の大峡谷である「由布川峡谷」など、魅力的な観光スポットや文化財が数多く存在しています。

豊かな自然に触れて、温泉に浸かって、美味しいものを食べて、住む人の温かさや、まちの文化にも触れていただき、心も体もほどけていくような時間を過ごすことができます。あふれるほどの魅力が詰まった、ここ由布市に、皆様、ぜひお越しください。

自衛隊との関わり

由布市には、陸上自衛隊湯布院駐屯地・西日本最大の日出生台演習場が所在しています。駐屯地とは、長年にわたり共存共栄を図っており、特に、総合防災訓練を初め、由布市の各種行事や市民の為の音楽演奏会等を行っていただき由布市にとってなくてはならない存在となっています。

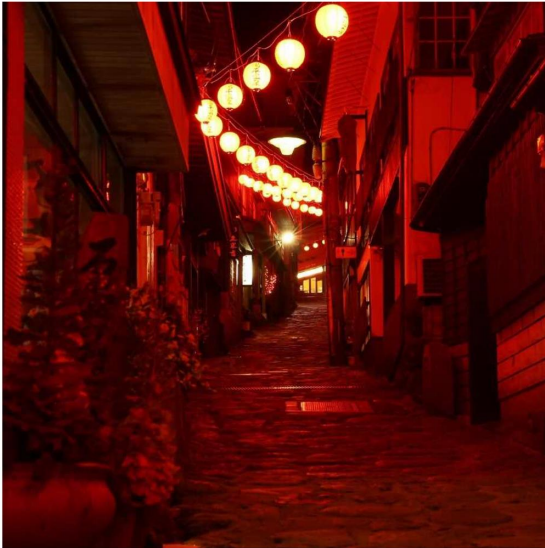


緊急登庁支援

大規模災害の発生時には、災害派遣部隊として被災地での救援、救助、更には、復興支援に従事するために家族を残して留守にせざるを得ないことがあります。そこで、湯布院駐屯地と由布市では、隊員が任務に従事する際に、安心して任務に集中できるように支援する事を目的とした協定【由布市と隊員家族安心協定】を締結いたしました。



観 光



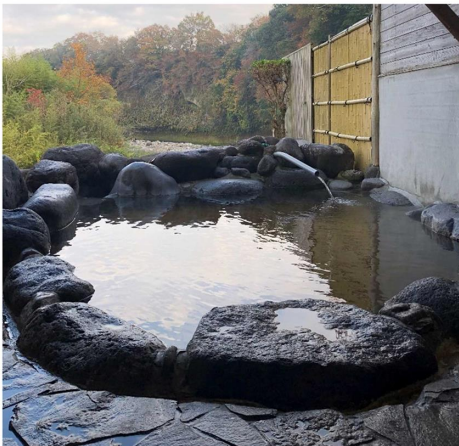
湯平温泉石畳

豪雨の被害を受けた湯平温泉でしたが、クラウドファンディング等により赤ちょうちんを新調して再び灯りがともりました。石畳のなかほどにある直径1メートルを超える巨大提灯は必見です。



塚原高原サイクリング

雄大な山々、広々とした草原、かわいい建物に素敵なお店が点在する塚原高原は「レンタサイクル」でのサイクリングがおすすめ。一人乗りの自転車からめずらしい二人乗りのタンデム自転車までオシャレな自転車を手軽にレンタルできます。(台数が少ないので事前予約推奨)



城ヶ原オートキャンプ場

庄内町にあるキャンプ場で、オートサイトは一区画がとても広く区切られています。

一番のおすすめポイントは天然かけ流しの露天風呂です。とろっとした泉質で美肌に効果があるといわれています。夜は川のせせらぎを聞きながら星を眺めてアウトドアの疲れも癒すことができます。

Instagram旅マガジン
(由布市まちづくり観光局)



由布市の旅に役立つ
情報更新中!

3. 業務紹介

施設管理課

概要

施設管理課の業務は、国有財産法などの規定に基づく自衛隊及び駐留軍の土地・建物等並びに防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律の規定に基づき、航空機の離着陸等により生ずる騒音を原因とする障害が特に著しい区域として防衛大臣が指定した区域に所在する土地の所有者の申し出により買い入れた土地（周辺財産）の管理を行っています。

当局の管轄区域は、福岡県、佐賀県、長崎県及び大分県の4県となっています。

主な業務

1. 自衛隊施設について、土地を管理するための測量、隣接地との境界を明確にするための境界確認、土地や建物などを管理するための国有財産台帳の整備、行政目的を妨げない範囲で防衛省以外の国の機関及び国以外の者に対する使用許可
2. 日米地位協定に基づき提供されている駐留軍の土地・建物等の管理
3. 飛行場や演習場の周辺で騒音被害が特に著しいとして防衛大臣が指定した区域に所在する土地の所有者の申し出により買い入れた土地（周辺財産）について、緑地帯や緩衝地帯としての整備、また、土地の有効活用の観点から、行政目的を妨げない範囲での公園の整備や使用許可、個人、企業等に対する一定の条件の下での有償による使用許可

周辺財産の公園としての活用



境界標の設置



施設の境界確認



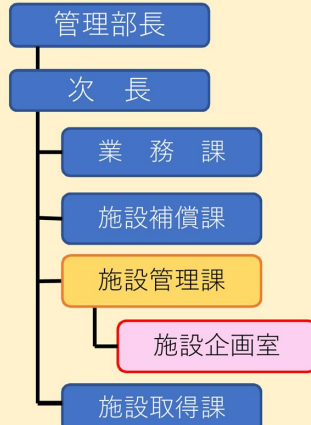
周辺財産の除草作業の様子

令和4年4月1日付けで管理部の組織を改編し、施設管理課に「施設企画室」が設置されました。

「施設企画室」の所掌業務

- 1 自衛隊の施設に供される行政財産及び民公有財産の管理に伴い生ずる諸問題についての調査・研究
- 2 駐留軍の使用に供する施設及び区域の提供及び駐留軍に提供した施設及び区域の返還に伴い生ずる諸問題についての調査・研究
- 3 前2号の諸問題に対する施策の企画・立案

管理部（令和4年4月1日）



4. インフォメーション

令和2年度計画護衛艦5番艦 命名・進水式 艦名「やはぎ」

令和4年6月23日(木)、三菱重工業株式会社長崎造船所にて、九州防衛局長崎防衛支局が監督・検査を担当している令和2年度計画護衛艦5番艦の命名・進水式が執り行われました。

式典当日は晴天に恵まれ、西佐世保地方総監執行のもと岩本防衛大臣政務官、酒井海上幕僚長、春日原装備庁長官官房審議官、伊藤九州防衛局長、三原長崎防衛支局長、支局員及び三菱重工業株式会社の関係者が見守る中、粛々と行われました。

命名式では、佐世保音楽隊による国歌吹奏に引き続き、岩本防衛大臣政務官が命名書を読み上げ、「やはぎ」と命名されました。「やはぎ」は西三河地域を流れる一級河川の矢作川に由来しています。また、この艦名は、旧海軍の筑摩型防護巡洋艦「矢矧」、阿賀野型軽巡洋艦「矢矧」に続き3代目になります。

命名式に引き続き、立神艦船製造部長の進水準備完了の合図により、岩本防衛大臣政務官が斧を振り下ろし、支綱の切断を行いました。くす玉が割れ佐世保音楽隊が奏でる軍艦マーチのなか、号砲とともに色とりどりの紙テープや風船が舞い艦番号5「やはぎ」は進水しました。

「やはぎ」は令和5年12月就役予定であり、これから就役に向けた本格的な装工事及び海上での確認運転等が計画されています。九州防衛局長崎防衛支局では引き続き、監督・検査に万全を期して参ります。



▲自衛艦命名式(岩本防衛大臣政務官から「やはぎ」と命名)



▲進水式(護衛艦「やはぎ」が進水)

令和3年度計画護衛艦の起工式を開催

令和4年6月30日(木)、三菱重工業株式会社長崎造船所にて、令和3年度計画護衛艦(以下「O3FFM」という。)7番艦の起工式が行われ、式典には、岸本長崎防衛支局次長、支局員、そして三菱重工業株式会社長崎造船所の関係者が参列しました。

起工式では、地元長崎の「諏訪神社」の宮司による神事が行われ、船こくブロックの組立て開始に先立ち、工事の安全と成功が祈願されました。式典中の「起工の儀」では、岸本長崎防衛支局次長がブロックの組立溶接を開始する溶接スイッチを押下。造船所工員が設置した溶接機械が作動しました。

O3FFM7番艦は令和5年1月からドック内でブロック搭載を開始し、同年6月に進水、令和6年12月に引渡予定です。一方のO3FFM8番艦は岡山県玉野市にある三菱重工マリタイムシステムズにおいて、令和5年4月から船台へのブロック搭載を開始し、同年11月に進水、令和7年3月に引渡予定です。



▲集合写真(写真中央:岸本長崎防衛支局次長・三木副事業部長)



▲起工の儀(岸本長崎防衛支局次長による溶接スイッチ押下)

第41回防衛問題セミナー

開催日時：令和4年7月14日（木）14:00～令和4年8月4日（木）14:00

視聴方法：オンラインセミナー（YouTube 配信）

■テーマ「離島防衛の中核 水陸機動団 –その任務と活動–」

○第1部 演題：「離島防衛の中核 水陸機動団 –その任務と活動–」

講師：陸上自衛隊 水陸機動団長 梨木信吾 陸将補

○第2部 「Q&Aセッション」–九州防衛局企画部長から–

《セミナー概要》

7月14日（木）から8月4日（木）まで、「離島防衛の中核 水陸機動団 –その任務と活動–」をテーマに第41回防衛問題セミナーをオンライン配信しました。（総視聴回数約1,600回）

第1部では、陸上自衛隊水陸機動団長の梨木信吾陸将補が「離島防衛の中核 水陸機動団 –その任務と活動–」と題して、水陸機動団の所在する相浦駐屯地の概要や水陸機動団が担う水陸両用作戦とは何かに始まり、水陸機動団の編成や任務、これまで参加した様々な訓練などについて講演しました。

第2部では「Q&Aセッション」と題して、当局の遠藤企画部長も加わり梨木団長への質疑応答を行いました。視聴者の皆様から事前に頂いていたご質問や、水陸機動団についてより深く知るための質問にお答えいただきました。諸外国や海・空自衛隊との連携や水陸機動団の訓練についての話の中では、実際の訓練時の写真や映像も使用し、より分かりやすい説明となりました。また、梨木団長が自衛官を志したきっかけやプライベートの過ごし方など、梨木団長の人柄に迫る質問にもお答えいただきました。

視聴者からは『他国との共同訓練の重要性や部隊訓練の取組について理解できました』、『団長の笑顔に、親しみを感じた。地域と一体になり発展する意気込みを感じ取ることができた』などのご感想を頂きました。

今回、新型コロナウイルス感染症の拡大防止策として前回に引き続きオンラインでの開催となりましたが、視聴者からは、『場所や時間を選ばず、参加（視聴）できた』といったご意見を多く頂きました。

九州防衛局では、今後も防衛省の諸施策や自衛隊の活動について、より多くの方々にご理解していただくため、様々な形で防衛問題セミナーを開催してまいりますので、開催の際は是非ご参加下さい。

今回のセミナーテーマである水陸機動団ではTwitterで日々の活動等様々な情報を随時発信しております。興味のある方はぜひフォローをお願いします。

水陸機動団Twitterアカウントはこちら→



▲梨木団長による講演



▲遠藤企画部長とのQ&Aセッション

感謝状贈呈 ～在日米海軍佐世保基地施設部隊長 アーガー中佐～

在日米海軍佐世保基地施設部隊長クリスチャン・J・アーガー中佐の離任に当たり、同氏の在任中の功績に謝意を表すため、令和4年5月13日（金）、九州防衛局において伊藤局長から感謝状を贈呈しました。

アーガー中佐は、令和元年7月着任以来、日本側の事情をよく理解し、積極的な対応に努め、基地関係諸問題の円滑かつ安定的な解決に尽力されました。

アーガー中佐は離任後、米国バージニア州ペンタゴンにて勤務されています。



▲アーガー中佐を囲んで

九州防衛局では不測の事態に対応するため、夜間・休日を問わず連絡体制を確保しております。

夜間及び休日の連絡先

電話：(092)483-8832 FAX：(092)472-1959

・平日は17時15分から翌朝8時30分まで、
休日は終日。